

## 平成31年度 第3回 三原市地域公共交通活性化協議会 会議概要

日 時：令和元年10月29日（火） 14：00～16：00

場 所：三原市役所 3階 304～306 会議室

出席者：20名（欠席1名）

内 容：

### 1. 開催あいさつ

### 2. 報告事項

(1) 書面審議の結果報告

(2) 平成31年度(4月～9月)地域コミュニティ交通の利用状況について

[事務局から資料1, 資料2により報告]

会 長：地域によっては順調に増えている所や、これから更に働きかけて増やしていきたい所もある。

(3) アンケート調査等の結果概要について

[事務局から資料3, 資料4により報告]

[質疑応答]

各委員：高坂町では、バスを利用しない理由として便が少ないというのが第一である。また、自分の必要な時間に便が無い、なるべく早く家に着きたいのに他の地域を廻るといふ声もある。将来的には困るだろうという意見が沢山あるが、今は何とかできるという状況である。

佛通寺は秋には莫大な人がやってくる。道路も一方通行にしなければならないような状況も発生し、本郷方面へ帰られる方の足止めになる。また、そこよりも北側では以前からバスが通っていない。一部、数年前に大和町から出発して高坂を通して本郷へ行く試行を実施したが、乗客はほとんどいなかった。市役所に相談しながら我々も出来る中で協議は続けているが、今すぐの対応には繋がらない。防災に関しても色々と進めており、要介護の方の対応など、町内会で民生委員と協議をしている。これらもバス交通の運営と関わっており、別個のものではない。他の地区はどうされているのか報告を聞きたい。

事務局：地域公共交通の導入については、手引等も作成し、地域に則した形でのデマンド交通等の交通手段の確保に向けて進めている。やはり地元地域の役員さんにも話に加わっていただき、地域の足は地域で守るという意識をしっかりと持っていただかなければ継続は難しい。要望等があれば私達も一緒に協議をしながら最善の方法が取れるようにと思っている。

会 長：今回のアンケートを見ると、高齢の女性の回答が多い。バスやデマンド型のタクシーを利用される方は女性の高齢者が多い。そういう方々のニーズを掘り下げて正確に把握することによって、防災も含め、様々な活動が可能になるようにすることが非常に大切かと思う。

各委員：各地区とも年々利用状況が減少している。利用は減っているが、潜在的な需要はある。例えば、ドアツードアの巡回型ではなく、サロンに行くといった目的別のもの。今のデマンド交通は、サロン開設日と運行日が合わないなどなかなか難しい。地域福祉の観点からサロン活動は各地区で活発に行われており、そこへの移動はスタッフが迎えに行くといったもので対応している。ただし、これ以上予算を投入してデマンド交通をやっていくのは難しいのではないかと思う。隙間の部分をどう埋めていくかに関しては、地域での移動支援を住民がやっていかなければならないと思うが、ボランティアで続けるというのは厳しい。介護保険で出る制度はあるが、三原市ではまだ着手していないので、そういう形での行政の支援があれば良いのではないか。

大和町においてはふれあいタクシーで全てをカバーするというのは難しいが、必要な人は沢山いる。隙間を埋めるには無償運行システムを導入していかねばならないと考えており、行政の支援もお願いしたい。

各委員：70世帯の町内会長をしている。高齢者はバスで100円という制度があるが、足が悪いと停留所まで行けない。将来的には町内でボランティア等の活動をしなればならないとは思っているが、タクシーの優遇措置もできないか。タクシーで日赤病院から西町まで行くのにだいたい400~600円くらいかかる。往復だと1,200円で薬代よりも高くなる。タクシーの優遇措置はどうなっているのか。

事務局：タクシー利用者への優待については、三原市が行っているものは今の所無い。ただ、免許返納をして運転経歴証明書が交付された方には市内のタクシー会社の独自の取り組みとして、運賃が1割引になるといったことを実施いただいている所がある。

各委員：タクシー会社では、障害者手帳、療育手帳を提示すれば1割引き、免許返納の証明を提示してもらえれば1割引きしている。一方で、世羅町や福山市など、公共交通で使える割引券を発行している所が増えている。今回の増税に伴い、タクシーも値上がりしている。早ければ年末、遅くても来年春までには賃上げを通してほしいと国に言っている状態である。西町から日赤まで往復で1,200円というお話であったが、賃上げが通ると往復で2,000円近くになる。乗務員不足も深刻である。70歳までをハンドル年齢としているが、来年だけでも3人70歳になり減ってしまう。どんどん規模を縮小していくしかないという現状である。しかしアンケートを見ると将来的にはもっとタクシーの利用が増えるかもしれない。福祉タクシーについては三原市内では動いているのはうちだけである。そういった中で、利用される方も補助があったほうが使いやすい。障害者割引・返納割引も全てタクシー会社持ちである。そういったものも含め、市と色々と協力してやっていければと思う。

会 長：事業者と行政の協力はかなり必要かと思う。よろしくお願いしたい。

### 3. 協議事項

#### (1) 第2期三原市地域公共交通網形成計画の骨子（案）について

[事務局から資料 5 により説明]

[質疑応答]

各委員：高齢者人口が将来どう推移していくのかという具体的な数字を入れた方が見やすいのではないかと。人口は減少するが高齢者の数は減少しない。それを施策の中でどのように反映してくかという1つの尺度にはなってくるかと思う。また、コミュニティ交通を充実させるという計画であると思うが、今実施している地域だけなのか、将来的に他の地域も含めて必要性が出てくるという判断なのか、どうやって計画の中に入れていくのかが少しわかりにくいと思う。

会 長：他の地域も含めてということは中山間地域を含めて全て考慮してやっていくということではよろしいか。中山間地域の取り組みなども組み入れてこの計画を展開していくかという意見である。

事務局：計画については市内全域を考えて行うものになる。

各委員：基本理念が掲げているが、この市民協働というのは市民と行政が協力して1つのことをやり遂げていくことと理解してよろしいか。また、協働ということはそれぞれ役割分担を持つことになろうかと思うが、市民の役割はどう理解したらよろしいか。

事務局：市民については積極的にご利用いただくということが1番の役割になろうかと思う。

※その他 ・地域関係者の一員として維持・活性化に向けた検討・運営  
・住民同士での利用意識醸成や利用促進に係る活動など、自ら交通を守るための取り組みの推進 など

各委員：他県、他市町でもモビリティマネジメントというものが言われている。市民の方が地域の交通について考えるきっかけを作っていくこと、またその中でも住民・市民が主体となって地域の公共交通を考えて作っていくことである。ここ最近、他県や他市町でこういったことが網形成計画に入ってきている。骨子の中にも「(5) 市民協働による地域公共交通の維持への対応」があるが、ぜひモビリティマネジメントのような具体的な観点での取り組みも入れると良いのではないかと。また、今車を運転出来ていて、公共交通を使っていない方も対象に何かできるものがあれば良いのではないかと。

それから、運転士不足に関しては県内で非常に深刻な問題となっている。広島県としても取り組みを考えたいと思っている。市の皆さんとも共有しながらやっていきたい。

会 長：県内の事例で三原市に活用出来るものがあれば積極的に意見としていただくことも非常に大事である。人手不足等に対してもアイデアがあれば是非出していただきたい。

各委員：モビリティマネジメントについて。公共交通を利用していない方に利用してもらうというものであるが、車を運転できる方にいきなりやめてもらうという主旨ではない。免許を持っている方が使う必要がないということではなく、例えば何か目的によって公共交通が使えるというタイミングがあれば少しずつ使っていただくというものである。一方で、そういう使い方すらできない運行であ

れば、皆で意見を出し合えれば良い。

このコミュニティ交通は色々なことを考えて導入されたと思う。導入するときには人材不足や、運行事業者の体力等様々な状況があって曜日を分けたり、便を少なくしているかと思う。しかし「便が少ない」といった不満が出ている。一方で、少ない便しか走れないという条件を提示した上で、ではこの時間にしてほしい、病院がある曜日は絶対必要等といったことが重なると仕組みをどう考えるのかに戻ってくる。今後、仕組みも改善していくのであれば、ワークショップのような形で自治体、事業者、地域の会長さんだけでなく、利用される方を交えて意見を出し合ったりすることも取り組んでいただければと思う。

市民協働といっても幅広いので、計画の方にも積極的に具体例を書いて、何をしていくかというイメージがある程度あった方が色んな意見が出やすいかと思う。

会 長：今後、市民のニーズを積極的に拾っていくということがこれからの計画の中では大事になってくるかと思う。

## (2) 佐木島循環バスの経路の一部変更及び停留所の新設について

[事務局から資料 6 により説明]

[質疑応答]

各委員：確認であるが、⑤～⑥の間が一部廃止になって、この間に停留所を設けるわけではないという理解で良いか。そうになると家から遠いというのは別の話になるか。

事務局：佐木島循環バスは経路上であればフリー乗降である。

各委員：佐木島でも自家用有償旅客運送をしているので、他の地域でもこういった形で各地を運行できれば時間等も含めて色々なニーズに答えられるのではないか。例えば、デイサービスは朝に迎えに行き、夕方に帰るものである。その間の時間は車の運転手が余っている会社もある。そういう所と話をして地域のタクシーの代わりになることもできるのではないか。また、買物や通院等の目的があるのなら、企業に対しても補助を出して運転手の確保をして、行政だけではなく地域も協力し、交通のニーズに合わせたものを作っていければ良いのではないかと思う。

事務局：道路運送法上の制約もあるが、そうした色々な角度からの視点を持ってどういったものが活用できるかを考えながら充実させていきたい。

## 4. その他

## 5. 閉 会